

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-161884

(43)Date of publication of application : 19.06.2001

(51)Int.Cl.

A63B 71/14

(21)Application number : 11-351089

(71)Applicant : MIZUNO CORP

(22)Date of filing : 10.12.1999

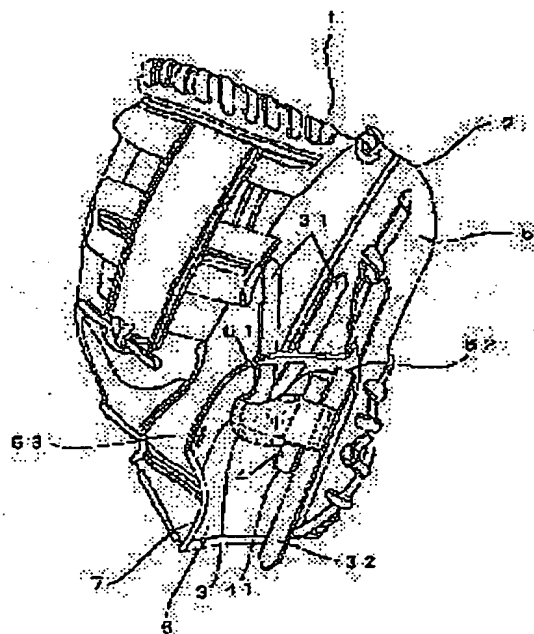
(72)Inventor : MOTOOKA KEN  
NAKAMURA KUNIHIRO  
TERASHITA MASAKI  
KUME KAZUHIRO

## (54) THUMB HOOKING STRUCTURE OF BALL CATCHING MEANS FOR BASEBALL OR SOFTBALL

## (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To fit the position of the thumb hook of a ball catching means for baseball or softball perfectly to the length of the thumb of a user of the ball catching means by making the thumbs hook adjustable in the direction of insertion of a thumb into a thumb pocket.

SOLUTION: The thumb hook 3 is provided at one end with a binding lace 31 and at the other end with an adjusting lace 32 and a guide hole 33 to insert a guide 4. The guide 4 is inserted into the guide hole 33, and then both the ends of the guide are fastened to palm leather 5. The binding lace 31 and the adjusting lace 32 are taken out of the back leather 6 of the thumb pocket 2 through the holes 61, 62, and 63 in the back leather 6 so that the laces can be freely tied.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

18.02.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3380200

[Date of registration]

13.12.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-161884

(P 2 0 0 1 - 1 6 1 8 8 4 A)

(43) 公開日 平成13年6月19日 (2001. 6. 19)

(51) Int. Cl.  
A63B 71/14

識別記号

F I  
A63B 71/14

テーマコード (参考)

F

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平11-351089

(22) 出願日 平成11年12月10日 (1999. 12. 10)

特許法第30条第1項適用申請有り 1999年6月31日 ミ  
ズノ株式会社発行の「BASEBALL EQUIPM  
ENT GUIDE 2000」に発表

(71) 出願人 000005935

美津濃株式会社

大阪府大阪市中央区北浜4丁目1番23号

(72) 発明者 元岡 憲

兵庫県宍粟郡波賀町安賀字土井171 株式  
会社ミズノインダストリー波賀内

(72) 発明者 中村 国広

兵庫県宍粟郡波賀町安賀字土井171 株式  
会社ミズノインダストリー波賀内

(72) 発明者 寺下 正記

大阪府大阪市住之江区南港北1丁目12番35  
号 美津濃株式会社内

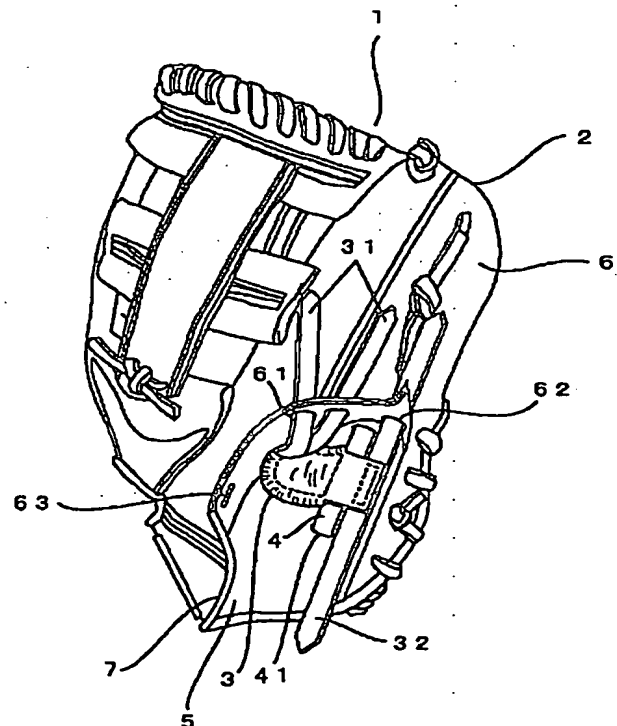
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 野球用又はソフトボール用捕球具の親指掛け構造

(57) 【要約】

【課題】 野球用又はソフトボール用捕球具の親指掛けを、親指袋への親指の挿入方向に調節できるようにすることにより、親指掛けの位置を、捕球具を使用する人の親指の長さにぴったりと合わせることができるようになる。

【解決手段】 親指掛け3の一端には縛着紐31を設け、他端には調節紐32とガイド4を挿通するガイド孔33を設けると共に、ガイド4はガイド孔33に挿通した後、両端を手掌皮5に固着し、縛着紐31及び調節紐32は親指袋2の背面皮6の孔61、62、63から背面皮6上に出した後、縛着自在とした親指掛け構造とした。



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】 野球用又はソフトボール用の捕球具

(1)の親指袋(2)の内側に設ける親指掛け(3)において、前記親指掛け(3)の一端には縛着紐(31)を設け、他端には調節紐(32)と、ガイド(4)を挿通するガイド孔(33)を設け、ガイド(4)は、ガイド孔(33)に挿通した後、両端を手掌皮(5)に固着し、縛着紐(31)及び調節紐(32)は、親指袋(2)の背面皮(6)の孔(61、62、63)から背面皮(6)上に出した後、縛着自在とした野球用又はソフトボール用捕球具の親指掛け構造。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、野球やソフトボールの時に使用されるグラブ・ミット等の捕球具(以下、単に「捕球具」という)の親指掛けの構造に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】野球やソフトボールをする時に、捕球具を用いてボールを捕球する際には、捕球具の親指袋に挿入した親指と他の指とでボールを挟むように握るものである。しかしながら、親指袋の内側の挿入口は広く、かつ滑りやすいので、親指の力を確実に捕球具の親指袋に伝えるために、図6に示すように、親指を固定するための親指掛け30を親指袋内に設けることが行われている。

【0003】親指掛け30は、前記したように、親指の力を効率よく親指袋に伝えようとするものであるが、実際には、捕球具を使用する各人の親指の形状や長さが異なるために、親指掛け30がうまく親指の形状と合わないことが多い。そこで、親指の力の効率よく親指袋に伝えるために、例えば、実公平6-1171号や特許第2608694号、同第2814224号の考案・発明がされている。

【0004】実公平6-1171号は、親指当接片3の左右に固着した縛着用の紐を外革に貫通し縛着することにより、紐を引張ることによって親指の位置を自由に調節すると共に、親指を当接片で包み込み、これを堅固に保定するものである。

【0005】特許第2608694号は、紐6を中皮と掌皮3の間を通した後、甲皮1の表面側に出して結び合わせたグラブであり、親指の両側方において親指の保持力の微妙な調整が可能となり、親指全体が均等に保持されて、良好な保持感覚を得ようとするものである。

【0006】特許第2814224号は、親指固定帯8の中央指受の両側から第一結索調節紐10、11と第二結索調節紐18を突設し、グローブ本体上に出して結ぶと共に、グローブ指端連繋紐13、14を親指部の内部を経由して該親指部の先端に出して結索した構造であり、親指挿通ループの大きさを使用者の親指の大きさに

適合させると共に、該親指挿通ループの位置と向きを微妙に変更調節しようとするものである。

## 【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前記したいずれの考案・発明も、親指掛け(前記考案・発明では、親指当接片、指止め、親指固定帯と表現されている)の位置は、その両側に延びる紐を捕球具の本体(外革、甲皮)上に出す孔の位置によって決定されてしまうため、調節といっても親指を締め付ける方向にしか調節ができなかった。すなわち、親指掛けを、親指袋への親指の挿入方向に調節するということではできなかった。従って、捕球具を使用する各人の親指の形状や長さに合わせて、親指掛けの位置を親指の形状とぴったりと合わせるということの根本的な解決とはなっていなかった。

【0008】そこで、本発明は、従来の前記したような捕球具の欠点に鑑み、親指掛けを親指袋への親指の挿入方向に調節ができるようにして、捕球具を使用する人の親指の形状だけでなく長さにも応じて、親指掛けの位置をぴったりと合わせることができ捕球具を提供しようとするものである。

## 【0009】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明は、野球用又はソフトボール用の捕球具1の親指袋2の内側に設ける親指掛け3において、前記親指掛け3の一端には縛着紐31を設け、他端には調節紐32と、ガイド4を挿通するガイド孔33を設け、ガイド4は、ガイド孔33に挿通した後、両端を手掌皮5に固着し、縛着紐31及び調節紐32は、親指袋2の背面皮6の孔61、62、63から背面皮6上に出した後、縛着自在とした野球用又はソフトボール用捕球具の親指掛け構造である。

## 【0010】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の捕球具1を、親指袋2の背面皮6方向から見た図である。図2は、図1の捕球具1を、手口挿入部7から親指袋2の長手方向に切開したところを示す説明図である。図3は、図1のA-A線切断端面図、図4は、本発明の親指掛け3の平面図である。

【0011】本発明の親指掛け3は、図4に示すように、一端に縛着紐31が設けられ、他端には調節紐32と、ガイド4を挿通するガイド孔33が設けられている。縛着紐31は、図2及び図3に示すように、親指袋2の背面皮6に開けられた孔61から背面皮6上に出すものであり、親指掛け3に挿入した親指の締め付け具合を調節した後、図1に示すように結んで固定するものである。(図2は縛着紐31を結ぶ前の状態を示しており、図1は縛着紐31を結んだ状態を示している。)

【0012】図1、図2、図4の実施例では、縛着紐31は2本となっているが、これは1本でも3本以上でもよい。しかし、2本とすることにより、親指掛け3に挿入した親指形状に応じて、締め具合を2本の縛着紐で微

妙に調節できるばかりでなく、図 1 のように結んで固定する際にも結びやすいものである。また、縛着紐 31 は、親指掛け 3 と一体としているが、これも任意に実施できるところであり、別体の縛着紐 31 を親指掛け 3 に縫合等の手段で連結することにより構成することもできる。

【0013】図 4 に示すように、調節紐 32 は、親指掛け 3 の長手方向と直角な方向に、縫着 34 によって連結されている。調節紐 32 は、図 1、図 2 に示すように、親指袋 2 の背面皮 6 に開けられた孔 62、63 から背面皮 6 上に出すものである。背面皮 6 上に出た調節紐 32 を、親指袋 2 の先端側あるいは手口挿入部 7 側に引張れば、それに伴って親指掛け 3 が、親指袋 2 内の親指の挿入方向へ上下に動くことになる。従って、捕球具 1 を使用する人の親指の長さに応じて、親指掛け 3 の位置をぴったりと合わせることができものである。

【0014】親指掛け 3 の位置を、挿入した親指の長さに応じて調節した後、図 1 に示すように結めば、その位置を固定することができるものである。(図 2 は調節紐 32 を結ぶ前の状態を示しており、図 1 は調節紐 32 を結んだ状態を示している。) また、図 1 では、手口挿入部 7 寄りに開けられた孔 63 が、親指袋 2 方向に縦長となるようにしているが、これは、挿入した手が調節紐 32 に当たって挿入感が悪くなることを防止するためである。

【0015】図 3、図 4 に示すように、親指掛け 3 の調節紐 32 側には、親指掛け 3 の長手方向と直角な方向にガイド 4 を挿通するガイド孔 33 を設ける。ガイド 4 は、ガイド孔 33 に挿通した後、図 2 に示すように、その両端を手掌皮 5 に固着 41 する。ガイド 4 は、親指袋 2 に挿入した親指の力を、親指掛け 3 から手掌皮 5 に伝える役割を果たしており、その結果、最終的に親指袋 2 を思いのままに動かすことができるようになるものである。このガイド 4 を設けず、調節紐 32 だけとした場合は、親指掛け 3 が親指袋 2 内でぐらついて、挿入した親指の力を確実に親指袋 2 に伝えることができないものである。

【0016】親指掛け 3 は、本実施例では、図 3 に示すように 2 枚の皮革を縫着 35 してなり、その端部には調節紐 32 を挟むように縫着 34 すると共に、ガイド 4 を挿通するガイド孔 33 を設けている。図 5 に示すように、縫着する 2 枚の皮革の内、親指が当たる側の皮革 36 を、親指掛け 3 の短辺方向に長めに切断し、それを折り込むようにもう 1 つの皮革 37 と縫着 35 すれば、親指掛け 3 の短辺方向の端部 38 に親指が接触する時の指触りがよくなる(図 2 ご参照)。なお、調節紐 32 とガイド孔 33 とは、位置が逆でもよく、また、親指掛け 3 は 1 枚の皮革を折り曲げて二重とすることもできる。

【0017】図 1 乃至図 5 は、本発明をグラブに実施し

た例について述べているが、本発明を野球やソフトボールの時に使用されるミットに実施することもできるものである。

#### 【0018】

【発明の効果】本発明は以上のように構成されているので、捕球具 1 の親指袋 2 の背面皮 6 上に出た調節紐 32 を、親指袋 2 の先端側あるいは手口挿入部 7 側に引張ることにより、親指掛け 3 の位置を、捕球具 1 を使用する人の親指の長さに応じてぴったりと合わせることができ。ぴったりと合わせた後は、調節紐 32 を結ぶことにより、その位置が固定できる。

【0019】また、親指掛け 3 に挿入した親指の締め付け具合は、捕球具 1 の親指袋 2 の背面皮 6 上に出た縛着紐 31 を調節することにより、捕球具 1 を使用する人の親指の形状に応じてぴったりと合わせることができ。この場合も、調節が済めば、縛着紐 31 を結ぶことにより、その位置が固定できる。

【0020】親指掛け 3 のガイド挿通孔 33 に挿通されるガイド 4 は、親指袋 2 に挿入した親指の力を、親指掛け 3 から手掌皮 5 に伝える役割を果たし、その結果、使用者は親指袋 2 を思いのままに動かすことができるものである。

#### 【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の捕球具を、親指袋の背面皮方向から見た図である。

【図 2】図 1 の捕球具を、手口挿入部から親指袋の長手方向に切開したところを示す説明図である。

【図 3】図 1 の A-A 線切断端面図である。

【図 4】本発明の親指掛けの平面図である。

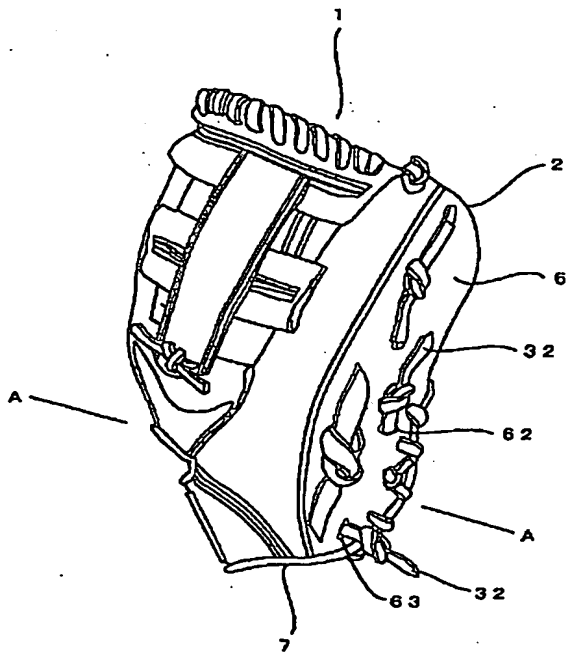
【図 5】図 4 の B-B 線切断端面図である。

【図 6】従来の捕球具の親指掛けの構造を説明する説明図である。

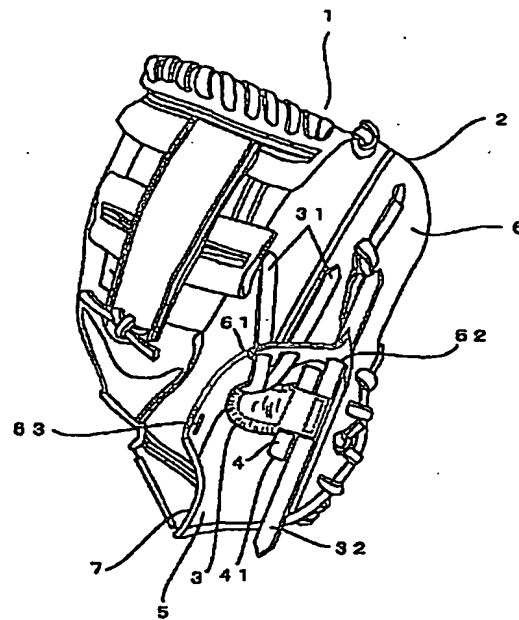
#### 【符号の説明】

- 1 捕球具
- 2 親指袋
- 3 親指掛け
- 31 縛着紐
- 32 調節紐
- 33 ガイド孔
- 34 縫着
- 35 縫着
- 4 ガイド
- 5 手掌皮
- 6 背面皮
- 61 孔
- 62 孔
- 63 孔
- 7 手口挿入部

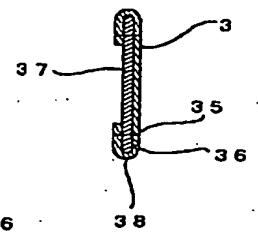
【図1】



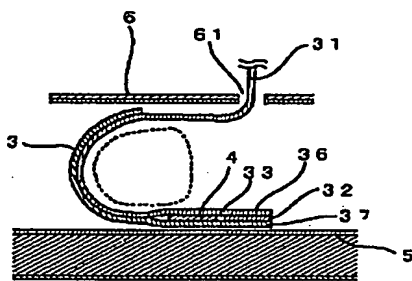
【図2】



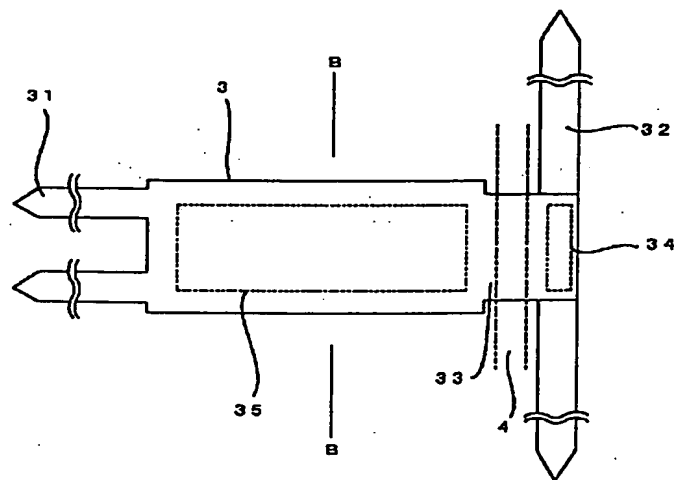
【図5】



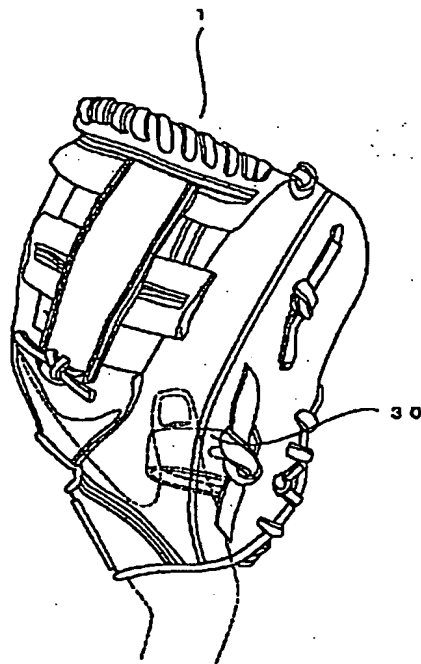
【図3】



【図4】



【図6】



---

フロントページの続き

(72)発明者 桑 和弘

大阪府大阪市住之江区南港北1丁目12番35

号 美津濃株式会社内